

令和5年度第2回帯広市交通安全市民会議 議事要旨

- 1 日時 令和5年12月27日(水) 13:58～14:28
- 2 会場 帯広市役所10階第6会議室
- 3 出席者
委員 池田 学、秋山 和仁、塚本 俊二、中馬いづみ、村岡 克己、遠山美津子、
佐藤 寛之、猪子 荘太郎、小野寺 正次、吉村 典子、廣橋 直子、
堺 玄州、高倉 美恵子、中村 博明
(以上14名、敬称略)
※欠席委員 太田 義彦、與坂 樹代二
(以上 2名、敬称略)
事務局 総務部長 廣瀬 智、危機対策室長 樂山 勝則、危機対策課長 尾澤 琴也
危機対策課長補佐 今野さゆり、危機対策課係員 工藤明日美
(以上5名)
- 4 会議次第
 - (1) 委嘱状交付
 - (2) 開会
 - (3) 委員紹介
 - (4) 議事
 - ①正副会長選出
 - ②帯広市交通安全市民会議の概要について
 - ③令和4年度帯広交通安全実施計画実績報告
 - ④帯広市の交通事故実態
 - (5) 閉会
- 5 議事
 - (1) 正副会長選出
帯広市交通安全市民会議条例第6条に基づき、委員の互選により、会長に中馬いづみ委員、副会長に塚本 俊二 委員が選出され、承認された。
 - (2) 帯広市交通安全市民会議の概要について
事務局より、標記会議の設置目的や委員の主な役割等について説明。
質疑応答なし

(3) 令和4年度帯広市交通安全実施計画実績報告

事務局より、第11次帯広市交通安全計画に基づき策定された、令和4年度帯広市交通安全実施計画の実績を報告。計画に基づき実施した事業内容や決算内容について説明した。

質疑応答なし

(4) 帯広市の交通事故実態

事務局より、令和5年1月から10月における帯広市内で発生した交通事故(人身事故)の概況について、死者数は10月時点でゼロ。前年と比較して交通事故発生件数は80件、傷者数は109名増加している。死傷者数は運転中では30歳代及び40歳代が最も多く、いわゆる現役世代が多いことなどについて説明した。

質疑応答あり 以下要旨

○交通事故による死者はゼロとのことであるが、傷者数が凄く増えている。

原因を把握しているか。

→具体的な原因は把握しておらず、推測であるが、コロナ禍からの行動制限緩和により、外出する機会が増えた。行動制限緩和による増と考える。

→具体的に検証していない為、憶測の範囲であるが、全道的に、コロナに関する部分が多いという印象。令和4年の北海道全体の交通事故人身事故の発生件数は、令和3年と比較すると、約130件の増。令和5年については、帯広警察署管内だけで約150件増。全道の令和3年から令和4年の人身事故の発生件数と、令和5年の帯広警察署管内の人身事故発生件数がほぼ同じくらい増加しており、北海道全体では約800件の増加になっている。それを考えると、5月に(コロナが)5類から2類に移行し、7・8月の夏場の時期に、全道で死亡事故が多発し、十勝でも大樹町の事故があった。

全道的に、道外からバイクでの旅行者の事故も多くなり、人の移動がコロナ前に戻ってきたというのが実態。

今年の1年間の最終的な統計をまとめると、去年は12月の発生が一番多いという統計が出ていたが、おそらく今年は8月、9月に交通事故が増加しているのではという印象を持っている。

その他質疑応答あり 以下要旨

○「令和5年度帯広市交通安全実施計画」について、「施策の方向：4 被害者支援の推進」とあったが、交通事故は望まなくして加害者になってしまう場合がある。

被害者から、精神的圧力をかけられ、逆に加害者側が精神的にまいってしまうケースもあるが、そういった方(加害者側)への支援はあるのか。

→具体的な支援は行えていない状況。一方で、そのような考慮する状況等がある場合は、関係機関と調整しながら、何ができるか考えていく。

→被害者支援の推進にかかるところであるが、市役所1階の市民相談室では民事の相談を受けて相談していただいている。より専門的なことになると、北海道の交通事故相談所があるので、そういったところへ繋いでいく。

以上